

## 平成27年度 キャリア教育推進地域事業推進校

研究テーマ

学校名：須崎市立須崎中学校

自分の個性や将来の生き方を考え、夢や理想をもって自分にふさわしい進路を選択するとともに、その進路に向けて努力する生徒の育成を目指す。

### 1. 取組内容

地域貢献を通して、生まれ育ったふるさとと自分自身への誇りを持たせるために

#### 1 はじめに

須崎中学校では、これまでも、学校周辺の芝桜の植樹、アルミ缶・プルタブの回収など、「人の役に立つ」ことで、自己肯定感を高める活動を行ってきた。中でも、半世紀以上続く長崎への募金活動は、地域へ出て学校の取組を知ってもらう機会でもあり、平和について学ぶことができる、先輩からの意志を引き継いだ大切なボランティア活動のひとつでもある。

また、生徒会活動では、行事の運営や日常の活動を通して、以下のような力をつけることを目標に取組を行っている。

- 他者を尊重する心
- 朝の会、帰りの会、授業、集会で相手を意識して話すこと
- 好きなことや得意なことを伸ばそうとすること
- 部活動や学習活動を通して、我慢強く取り組む力
- 自分で考え、判断する力
- 夢や目標をもち努力すること



平成27年度生徒総会

#### 2 子ども議会への参加をきっかけに

2年前、初めて参加する「須崎市子ども議会」はどのような意見を出せばいいのか、生徒たちはわからない様子だった。東日本大震災の記憶も鮮明に残っており、それと同時に新しい量販店が次々と建ち並ぶ多ノ郷地区と違い、急速に過疎化が進む須崎中学校区の商店街を思い浮かべ、ふるさとに対する思いも複雑な様子だった。

しかし、自分たちが暮らす地域の課題を「だれかにどうにかして欲しい。」とか、「学校にこんなものがあつたらいい。」などと、要望を出すのではなく、将来の須崎市を担う中学生として、「中学生の自分たちができること」をテーマに考えをまとめた。

須崎中学校生徒会が、子ども議会で提案したのは以下の2つである。

○須崎市のご当地キャラ「しんじょうくん」を活用した「まちおこし」

○地域への恩返しのために、中学生でもできるボランティア活動

これらの2つを柱として、大人になっても住み続けたいまちづくりについて、中学生も参画し、須崎市の将来について大人といっしょに考えるための「井戸端会議」の実施を提案した。

#### 3 井戸端会議に向けて

不可能だと思っていた井戸端会議が実現の方向に動きだした。ご当地キャラのしんじょうくんも生徒たちの未来に夢と希望を与えてくれる存在となっていく。また、学校での地道な活動を通して、自信を少しずつつけていった生徒たちは、地域の課題についても前向きに考えられるようになった。

井戸端会議を前に、2、3年生の社会科の授業で「まちおこし」について学習を行った。須崎市の未来のために何ができるのか、数時間の学習後、考えをまとめた。

社会科ワークシート

- ① 市民が安心して暮らせるために須崎中学校の生徒ができるボランティア活動を書きなさい。(いつ どこで 何をするか)
- ② 須崎市ご当地キャラ「しんじょうくん」を活用した町おこしのアイデアを書きなさい。

授業後、生徒から出たアイデア

- ハザードマップ作り
- お祭り前後のごみ拾い
- 吹奏学部の演奏会
- シンボルロードの飾り付けの参加
- 中学生おすすめの店のチラシ作り
- あいさつ運動
- 高齢者との交流
- 商店街で子どもが店を開く
- レジ袋にしんじょうくんの絵を入れる
- 歌、ダンスを作る
- ご当地キャラファミリーを作る。(しんじょうくんの彼女)

井戸端会議には、中学3年生を中心とした生徒会と、引き継ぎを目的に2年生の代表も参加した。市長さん、教育長さん、須崎市元気創造課など市の職員の方や、商店街の代表の方と意見交換を行った。生徒から出される様々なアイデアを応援してくれる大人たちの声に、勇気もらい、生徒たちは須崎市への思いを新たに。須崎中学校の活動を知り、地域からもボランティアの誘いもあり、以前に増して地域へ足を運び、交流を深め、地域を知る機会も増えてきた。



市長さんと井戸端会議



地域ボランティアに参加

#### 4 須崎市PR曲の誕生

井戸端会議に出席した2年生は最上級生となり、須崎中学校のリーダーとして成長し、大人になっても住み続けたい須崎市をつくるために出された様々なアイデアをひとつずつできることから実現していった。その中のひとつが「須崎市PR曲の作成」である。

社会科の授業で学んだまちおこし、ボランティア活動で出会った地域の温かさ、井戸端会議に臨むためのアイデアから知った須崎市の産業、生まれ育ったまち須崎市の魅力を少しずつ感じ始めていた生徒たちは、これを全校のものにしようと考えた。生徒集会で、井戸端会議に出席したことの報告を行い、須崎市の魅力を1行詩に書いてみようとして「須崎市PR曲の作成」への協力を呼びかけた。



PR曲作成スタート



全校生徒から集まった  
須崎の魅力満載の1行詩



作詞の作業をする生徒会



## 5 須崎市PR曲完成記念式典の取組

須崎市を元気にしたいという生徒たちの夢の実現に向け、一体感や成功感を体験させ、自己実現と生徒相互の共感的な人間関係を育てることを目的に、「すさきがすきさ」の取組は市内全体へと広がっていった。そして、須崎市内5つの中学校の生徒代表で実行委員会を立ち上げ、須崎市PR曲完成記念式典を企画、運営することになった。

第1回目の実行委員会では、以下のことを話し合った。

- 組織決め
- 須崎中学校のこれまでの取組
- プロジェクトを達成するためのスローガン決定
- 式典の内容
- 役割分担
  - ・生徒会共同宣言の作成
  - ・ちらし、ポスターの作成
  - ・式典の名称を考える
  - ・司会など当日の発表について

また、式典では、それぞれの中学校区の紹介も行うことを決めた。

短い期間に式典の準備を生徒たちの力で行うと同時に資金集めのために、第1回ご当地キャラ祭りでイベントにも参加し、販売活動を行った。



### 販売活動に参加した生徒たちの感想

あのような体験をするのは初めてだったので最初はバタバタしたり、分からないこともたくさんありましたが、市役所の方がいろいろ教えてくださいましたので、自分たちで仕事をこなすことができました。どうすればたくさんの人に買ってもらえるのか、考えながら売ることができました。立ち仕事やお金の計算、接客など大変なこともたくさんありましたが、終わった後は達成感とともに、自分たちのPR曲のお金、須崎市へのお金、人の役に立っているなど感じる事ができました。

この体験をいかし、これからの生徒会活動も積極的にやりたいと思います。

初めは売ることについて簡単に考えていました。でも、実際販売活動を行ってみて、お金の計算が大変だったし、人と関わること、どうしたらたくさんの方が来てくれるかなど、いろいろ考えることがたくさんありました。人がたくさんいて、いろんな店もあって、その店の売り込みの方法やいっしょに販売していた大人の方などに教えてもらいながらできたことはとても役に立ちました。私が気がつけたことは、大きな声でたくさんの方の目をひくこと、小さい子どもが相手の場合は目線を合わせることなどです。



11月29日、～須崎の風を全国へ～をスローガンに「須崎のまちを日本一にするPR曲 完成記念式典」は、須崎中学校9名のすさき～真実～のよさこい鳴子踊りで華やかにスタートした。



実行委員がたくさんの人に楽しんでもらおうと、工夫をこらした式典の中、実行委員長である前須崎中学校生徒会長は代表として以下のあいさつを行った。



本日の式典にいたるまで、多くの方に協力していただきました。須崎市内5校の生徒代表とひとつのことを成し遂げ、活動の場を広げることができました。

昨年度から再スタートした「子ども議会」は、私たち若い世代に須崎市のこれからのことを考える機会を与えてくれました。よりよい学校生活を送ること、防災についての知識・備え、それぞれの学校のいいところなど、議会で提案されたことは私たち子どもならではのいい考えがたくさんありました。

須崎市の活性化と未来を考え提案した「須崎市をPRする曲を作成する」ことが、いろいろな人の力を経て完成しました。たくさんの苦労はあったけれど、自分たちの夢が実現したことは、私たちにとって大きな喜びでもあり、自信にもつながっています。

歌詞の中には、たくさんの須崎市の宝が歌われています。海、山、川などの自然、おいしい食べ物、人々の生活の営み、そして人情。私たち実行委員はこの式典を「須崎のまちを日本一にするPR曲完成記念式典」と名付けました。この曲が日本一、自然、食べ物、農作物、私たちの学校が日本一など、須崎のすばらしさの中でそれぞれの日本一を発見してもらいたいと思います。

作曲家、織田哲郎さんの歌は、私たちに元気と勇気を与えてくれます。この「すさきがすきさ」もそうです。近い将来おとずれるであろう南海大地震にも負けない力、どんな災害にあってもやっぱり「すさきがすきさ」と思える人づくりにつながっていけばと強く願っています。

それぞれの学校が行った地域紹介は、須崎市全体のそして、地域の良さを再確認する機会となった。



式典での発表



須崎地区の名所紹介



須崎市PR曲「すさきがすきさ」を歌と踊りで披露

5校の生徒代表による生徒会宣言

### 生徒会宣言

新庄川の清らかさ、須崎・野見・浦ノ内湾のおだやかさ、太平洋のおおらかさ、それらを育てる森林の緑など、私たちは、これらの豊かな自然からたくさんの恵みを受けています。

このまちで生まれ育った仲間、私たちを見守り育ててくれた地域、私たちは須崎が大好きです。

新しいものや、その時代の流行に頼るのではなく、人々の生活の営みから生まれたものを大切に、伝え、未来につなげていきたい。

ひとりひとりの力は小さくても、大人になって歩む道がそれぞれちがっても、みんなが須崎のことを考え、できることをやっていきたい。

#### ～私たちにできること～

- 5つの中学校の代表がそれぞれの中学校区をつなげます。
- 地域の自然、文化、産業について学習を深め、須崎の未来について考える力を養います。
- 地域の行事やボランティア活動に参加し、人とのつながりを大切に、社会に役立つ人になります。
- 防災学習を通じて、安全・安心なまちづくりをめざすとともに、災害に負けない、心と体をつくります。

以上のことができるよう、私たちは今、学校でやるべきことに全力で取り組みます。

#### ～式典後の生徒の感想～

自分たちが提案した取組が1つの形となってこのように盛大に行われたことは、私にとって大きな喜びと自信につながりました。できるだけ自分たちの力でやろうと、大人たちの力を借りずにやることができました。そのおかげで仲間と協力し、力を合わせることの大切さ、自分の意見をどうすれば伝えられるかなど人として成長することができました。この曲が須崎の人に愛される曲となり、県、そして全国へと広がっていくための取組を残り少ない中学校生活の中で取り組んでいきたいと思っています。私たちはこれからも自分たちの住む須崎をこの曲とともに全国へPRする活動を続けていきたいです。

多くの人の協力を得て、完成記念式典を終えることができた。舞台裏の暗がりの中で、出番を待ちながら台詞をくりかえし練習する生徒たちの姿が忘れられない。「明日へつながる横浪三里」すさきがすきさの歌詞の一部にあるように、人をつなぎ、須崎の今を未来へつなぎ、夢と希望をのせた生徒たちの宝物「すさきがすきさ」は次の世代へとつながっていった。

式典後、生徒会の任期も残り1ヶ月、家庭科の保育実習で披露する、クリスマスイベントへの参加、防災無線の放送で流してほしい、CDの販売、プロモーションビデオの作成、などPR曲の活用方法を考えた。これらのほとんどは新生徒会のメンバーとともに実現している。

これらの活動が評価され、年度末には、高知県児童・生徒表彰「善行の部」の表彰を受け、数百人の受賞者の代表として、以下のようなあいさつも行った。

お礼のこぼ（抜粋）

私たちは、今日表彰された活動を通して、自分自身、学校、生まれ育ったまちに誇りをもち、未来に向かって一歩踏み出すことができました。大きな志と向上心、目標に向かって努力する仲間がこんなにたくさんいることを知り、励みになり、勇気もわいてきました。

また、今日まで共にごんばってきた仲間、厳しさと愛情をもってご指導してくださった先生方、温かく見守ってくれた家族や地域の方に感謝の気持ちでいっぱいです。

今日、賞をいただいたことは、私たちの大きな自信につながりました。これからも、常に新しい目標をもち、感謝の気持ちを忘れず、日々弛まぬ努力を重ねていきたいと思います。



## 6 織田哲郎ライブ実現

須崎市教育委員会の支援を得、また生徒たちの熱意が伝わり、本年度8月に「織田哲郎スペシャルライブ」を行うことになった。

たくさんの人に来ていただき、須崎の良さを知ってもらうために、生徒たちは様々な場所でPR活動を行った。



学校前の道の駅かわうその里すさきで  
しんじょうくんと共に  
みよがの無料配布とチケット販売



ライブ当日は、ボランティアの生徒が物品販売や会場整理を行った。



ライブ前に織田哲郎作曲の「すさきがすきさ」を披露した後、前生徒会長は、後輩にこんなメッセージを残した。「たくさんの苦労はありましたが、織田哲郎さんの作る歌は、私たちに元気と勇気を与えてくれます。「すさきがすきさ」は生まれ育った須崎市と中学校時代の大切な友だちを思い出させてくれます。これからも「すさきがすきさ」と胸をはって言えるようお互いがんばっていきましょう。」

ライブを終え、生徒会もボランティアとして参加した生徒も、多くの来場者に声をたくさんかけてもらい、満足した様子だった。



ライブ数日後、織田哲郎さんの福岡県のファンから学校にこんな手紙が届いた。

#### 前略

先日、須崎で行われた「織田哲郎スペシャルライブ」に行きまして、須崎の方々にお礼を伝えたくてペンを取りました。

このライブの準備に携わられた須崎市教育委員会、実行委員会、ライブ当日、須崎中学校の職員の皆さま、生徒の皆さん、OBの皆さん、スタッフの方々、本当にお疲れ様でした。

会場のホール一杯に、地元の方の温かい気持ちと、盛り上げようとする精一杯の一生懸命さが伝わってきて、織田さん自身もうれしかったのではないかと、一ファンですが、遠方から足を運んで良かったなど感動しました。

「すさきがすきさ」の曲、DVDを作った経緯を聞いて、まだ14歳～15歳の子どもたちが大人たちを動かしたエネルギーはすごいこと。素晴らしいですね。このエネルギーの源は、友人、家族、学校、地域に住む人々とのつながり、絆から生まれたものなのでしょうね。夢、未来多き子どもたちの成長、遠いところからですが応援しています。

## 2. 成果

本年度の全国学力・学習状況調査では、全国の平均正答率と比較すると、国語A-1. 6p、国語B+2. 7p、数学A-1. 0p、数学B-4. 8p、理科B-2. 6p という結果であった。また、県の平均正答率と比較すると、国語A0. 9p、国語B5. 6p、数学A3. 5p、数学B0. 6p、理科 3. 1p と、近年で初めて県の平均正答率を全ての教科で上回る結果となった。

これは、「わかる授業づくり」と「家庭学習と授業の連動」の2つを柱とする『教育指導方法の工夫・改善』と「自治の力をつける」ことと「地域貢献」を目標に掲げた『生徒会活動』の2つの取組が両輪となり、学校全体に「明るく温かな学びの風土」が少しずつ根付いてきたことが背景にあると思われる。

「わかる授業づくり」では、授業改善プランや須中式スタンダードに沿った地道な取組を継続するとともに、キャリア教育視点でのつきたい力を意識して授業を行っている。併せて、「班会での話し合いのしかた」、「発表のしかた」を教室に掲示し、朝の会・帰りの会の流れも全校統一して行い、「相手を意識して話す」「自分のことばで伝える」ことを大切にしながら取り組んでいる。

「家庭学習と授業の連動」については、「すちゅうがすきさノート」（須崎中学校独自の自主学習ノート）を作成し、授業内容を記録し、その内容を振り返り、家庭学習につなげる指導を行っている。

生徒会活動では、生徒の規範意識を高める活動、自治の力をつける活動、地域貢献など7つの項目の中からどの活動を活発に行っているかというアンケートを実施した。その結果、「須崎市PR曲 すさきがすきさの活動」を選んだ生徒が多かった。その理由として生徒は以下のようなことを記述していた。

「この曲は須崎のいいところがいっぱいあって、これを須崎に住んでいる私たちが知り、また多くの人に須崎のことを知ってもらいたいという願いが込められているようで、本当によかったと思っています。この曲ができて、須崎に生まれ、育って本当によかったな、そう思えるくらい、この曲には希望や夢があります。この曲ができて、「すさきがすきさ」の題名のように、須崎がもっと好きになりました。」

「私は生徒会に入っていて、地域のイベントに参加するたびに思うことがあります。この曲のおかげで地域の人が笑顔になってくれたり、少しは須崎市が活性化しているなど感じます。私たちが須崎のために行っていることがどんどん広がっていると思うと、この曲を作った意味があるなどと思います。この曲ができたことで、より須崎のことを知り、曲名のようにもっと須崎を好きになっていると思うから、この曲ができてよかったなどと思います。」

子ども議会から始まった「すさきがすきさ」の活動の成果は、生徒の言葉に集約されている。知ることから好きになる、好きになったことに対して努力をし、それを自信につなげる。そしてその自信が新しいチャレンジを生む。地域の未来を担う中学生の行動は、最終的なキャリア実現の基礎となっているのではないだろうか。

## 3. 課題とその改善策

本年度の生徒たちは、先輩たちより充実した活動を行いたいという思いはあるものの、「すさきがすきさ」を生み出し、披露するまでを行ってきた昨年度と違い、まだ本当の達成感を味わわせることができていない。今後、どうやって全校生徒に「すさきがすきさ」という気持ちを広めていくか、また、様々なイベント活動だけではなく、自分たちならではの活動を仕組んでいく必要がある。今後予定している大人との井戸端会議への準備である事前学習でそれを考えさせたい。

学校での活動に併せ、地域貢献でさらに何ができるかを考えたときのいちばんの課題は、中学生の多忙さである。学習・部活動と生徒会活動を両立させ、より効果的に、効率的に活動するにはどうすればいいのか、生徒の実態に合わせ、検討していく必要がある。

そのためには、小学校でつけてきた力をいかすことと高等学校との連携をふまえた総合的な学習の時間のカリキュラムの見直しもしなければならない。1年「地域を知る」、2年「地域を体験する」、3年「地域をつくる」の総合的な学習の時間のテーマにあるように、系統立てた取組を行っていきたい。

最後に「すさきがすきさ」のゴールは、市内5校の生徒会で作成した生徒会宣言の中にある。「すさきがすきさ」を生み出した自分たちの力を信じ、社会に役立つ人、困難に負けない、力強い心と体を育む取組をこれからも継続して行っていきたい。